

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

芸術（美術）

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 3～7)

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括, 「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価, 評価方向やワークシートの活用例, 「主体的に学習に取り組む態度の評価

科目 美術 I

(内容のまとめり 「絵画・彫刻「A表現」(1), [共通事項]」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」)

題材 自画像「自己をみつめて」

(P. 8～12)

事例2 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括, 「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価, 評価方向やワークシートの活用例, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目 美術 I

(内容のまとめり 「デザイン「A表現」(2) デザイン, [共通事項]」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」)

題材 デザイナーになろう! 「宮城県・県制 150 執念記念事業ロゴマークの制作」

(P. 13～19)

事例3 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括, 「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価, 評価方法やワークシートの活用例, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目 美術 I

(内容のまとめり 「デザイン「A表現」(2), [共通事項]」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」)

題材 「新しい生活様式のポスター」

(P. 20～26)

事例4 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括, 「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価, 評価方法やワークシートの活用例, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目 美術 I

(内容のまとめり 「デザイン「A表現」(2), [共通事項]」及び「作者の心情や意図と創造的な表現の鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」)

題材 「贈りたい人を思いながら飴肥杉のランプシェードを作ろう」

(P. 27～33)

事例5 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括, 「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価, 評価方法やワークシートの活用例, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

科目 美術 I

(内容のまとめり 「映像メディア表現「A表現」(3), [共通事項]」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」)

題材 「学校紹介映像を制作しよう」

(P. 34～39)

事例6 キーワード 「知識」を活用した対話による鑑賞の評価

科目 美術 I

(内容のまとめ 「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」)

題材 「対話による鑑賞」～鑑賞から膨らむイメージ～

芸術科（美術） 事例 1（美術 I）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価、
評価方法とワークシートの活用例、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名

自画像「自己を見つめて」

内容のまとめ

「絵画・彫刻「A表現」(1), [共通事項]」及び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」

<関連する学習指導要領の内容>

○「A表現」

(1) 絵画 絵画に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想

(ア) 自然や自己, 生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと, 夢や想像などから主題を生成すること。

(イ) 表現形式の特性を生かし, 形や色彩, 構成などについて考え, 創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に, 創造的に表す技能

(ア) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。

(イ) 表現方法を創意工夫し, 主題を追求して創造的に表すこと。

○ [共通事項]

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して, 次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 造形の要素の働きを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや作風, 様式などで捉えることを理解すること。

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや作風, 様式などで捉えることを理解する。
- ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし, 創意工夫して主題を追求して創造的に表す。

(2) 「思考力, 判断力, 表現力等」に関する題材の目標

- ・表現形式の特性を生かし, 形や色彩, 構成などについて考え, 創造的な表現の構想を練る。
- ・造形的な良さや美しさを感じ取り, 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え, 見方や感じ方を深める。

(3) 「学びに向かう力, 人間性等」に関する題材の目標

- ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み, 美術を愛好する心情を育むとともに, 感性を高め美術文化に親しみ, 表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などの効果で全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 発想や構想したこと等を基に, 意図に応じ材料や用具の特性を活かし, 表現方法や意欲的に工夫しようとしている。</p>	<p>発 自己や他者などを見つめ感じ取ったことや考えたこと, 夢や想像などから主題を生成し, 表現形式の特性を生かし, 形体や色彩, 構成などについて考え, 創造的な表現の構想を練っている。</p>	<p>態表 主体的に自分や家族, 友人などの身近な人を見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の表したい人物像について考え, 見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

3 指導と評価の計画 (全8時間)

次	<p style="text-align: center;">●学習のねらい ○学習活動 指導と評価</p>	知技	思	態
1	<p>1. 作品の鑑賞～発想や構想 (1時間)</p> <p>●美術作品から、作者の心情や意図に応じた多様な表現について考える。</p> <p>○人物像をテーマにした複数の美術作品 (ピカソ、ゴッホなど) を鑑賞し、作品から感じ取った意図や表現方法について意見を交わし、主題と表現の工夫について考える。</p> <p>○形や色彩などが感情に与える効果や全体のイメージで捉えることを理解する。</p> <p>※ICT (パワーポイント、実物投影機など) を活用して、様々な作品を鑑賞し、作者の自画像に対する思いや工夫点、制作に向き合う姿勢を養う。</p> <p>●主題を生成する。</p> <p>○自分を見つめ、表現したい表情 (構図や構成) について考察し、感じ取ったことや考えたことをアイデアスケッチする。</p> <p>○人物と画面全体の関係バランスを考え、創造的な構成を工夫しながら構想を練る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>知 形や色彩などの効果で全体のイメージで捉えることを理解しているかどうか見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。(ワークシート、アイデアスケッチ)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>態表 構想しようとしていない生徒を見取り、対象とする人物(自分)を再度見つめさせ、あらためて主題を考えさせたり、造形要素が感情にもたらす効果や全体のイメージなど造形的な視点に立って考えさせたりするなどの指導を行う。(ワークシート、アイデアスケッチ)</p> </div>	<p style="text-align: center;">知 ↓</p> <p style="text-align: center;">知</p>		<p style="text-align: center;">態表 ↓</p> <p style="text-align: center;">態表</p>
2	<p>2. 制作 (6時間)</p> <p>●アクリル絵具の表現方法を身に付ける。</p> <p>○形や色彩がもたらす効果などを考えながら、自分のイメージを基に、絵具の濃度やタッチを工夫するなど、様々な表現方法を試す。</p> <p>●発想や構想を基に、意図に合う表現方法を工夫する。</p> <p>○アクリル絵具など画材の使い方を工夫して表現する。</p> <p>○制作途中に互いの作品を鑑賞する時間を設け、他者の作品を見たり、自分の制作意図を説明したりすることで、より自分が表したいものを明確しながら完成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>技・態表 発想や構想したこと等を基に、意図に応じ材料や用具の特性を活かし、表現方法や意図的に工夫しようとしているかなどの態度を見取る。実現できていない生徒に対して、再度主題を見直させたり、表現意図と材料や用具の特性とを関連させて再考させたりするなどの指導を行う。(制作途中の作品、机間巡視)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発 材料や用具、配色などがまとまらない生徒を中心に見取り、再度主題や構想を確認させるなど指導を行う。(制作途中の作品)</p> </div>	<p style="text-align: center;">技 ↓</p> <p style="text-align: center;">技</p>	<p style="text-align: center;">発 ↓</p> <p style="text-align: center;">発</p>	<p style="text-align: center;">態表 ↓</p> <p style="text-align: center;">態表</p>

3	3. 鑑賞（1時間） ●生徒作品や美術作品などから，作者の心情や表現意図と工夫などについて考え，見方や感じ方を広げる。 ○お互いの作品を鑑賞し，作品から感じたことや考えたことをワークシートにまとめて発表し合う。 ○作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて，自分の制作活動から，新たな見方や感じ方を広げる。	知 ↓	鑑 ↓	態鑑 ↓
	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> 知 造形要素の働きや効果，全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り，理解していない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。（発言内容，ワークシート） </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 鑑・態鑑 作品の造形的な良さや美しさを感じ取り，作者の心情や表現意図と工夫などについて考え，見方や感じ方を深めているかどうかと，学習に取り組む態度とを見取る。できていない生徒に対して主題から作品を見つめさせたり，作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。（発言内容，ワークシート） </div>	知	鑑	態鑑
	※授業外：○校内展示～作品紹介	知・技	鑑 発	

4 本事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価基準		◎Aの具体例 ■Cへの手立て
知	形や色彩，材料，光などの性質やそれらが感情にもたらす効果，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	◎形や色彩，材料，光などの性質やそれらが感情にもたらす効果を多様な視点から理解したり，幅広い視野に立って造形的な特徴などを基に，表情やしぐさなどから，その人らしさなどの全体のイメージや作風などで捉えることを理解したりしている。 ■形や色彩，材料，光などの性質やそれらが感情にもたらす効果をより実感的に理解できるよう，具体例を示しながら考えさせる。
技	意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに，表現方法を創意工夫し，主題を追求して創造的に表している。	◎意図に応じて多様な視点から材料や用具の特性を効果的に生かすとともに，表現方法について試行錯誤を重ねて創意工夫し，主題をあらゆる可能性から追求して創造的に表している。 ■材料や用具の特性の生かし方や様々な表現方法について実際に材料や用具を用いながら説明し，試させたり，主題を確認させて生徒自身が表したいことを整理させたりする。
発	自己や他者などを見つめ感じ取ったことや考えたこと，夢や想像などから主題を生成し，表現形式の特性を生かし，形体や色彩，構成などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。	◎自己や他者などを深く見つめ，その人らしさについて感じ取ったことや考えたこと，夢や想像などを基に主題を生成し，よりよく表現形式の特性を生かし，知識を効果的に活用しながら幅広く形体や色彩，構成などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。 ■自分の内面や他者の表情やしぐさなどから，その人らしさについて考えさせたり，感じ取ったことや考えたことなどを振り返らせたりしながら，主題と造形の要素の効果や構成などとの関係について考えさせる。

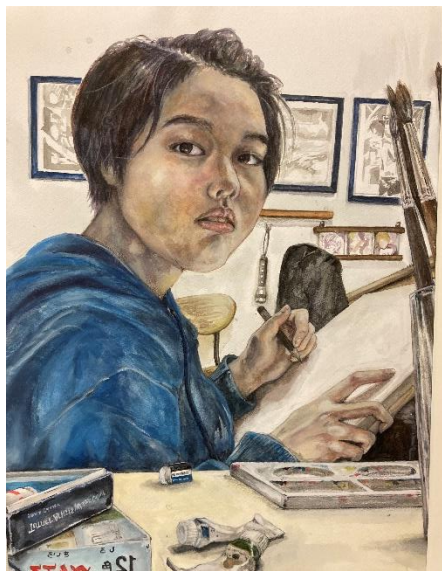
鑑	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	◎多様な視点に立って、造形的なよさや美しさをより深く感じ取り、知識を効果的に活用しながら作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて、自分としての根柢をもちながら関連付けて捉え、見方や感じ方を深めている。 ■主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりすることや、自己の表現の活動を振り返らせて、表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方が深められるようにする。
態表	主体的に自分や家族、友人などの身近な人を見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。	◎より主体的に自ら進んで表現の創造活動に取り組み、より良い表現を目指して、表現形式の特性の生かし方について考えようとしたり、知識を効果的に活用し、形体や色彩などについて試行錯誤を重ねて創意工夫したりして粘り強く創造的に表そうとしている。 ■生徒自身の表したいことを整理させ、様々な材料や用具、表現形式について具体的に示し、それらの生かし方から主題を基にした構想を練らせたり、主題を追求して表すことができるようにしたりする。
態鑑	主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい人物像などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	◎より主体的に自ら進んで鑑賞の創造活動に取り組み、作品に表された人物像を深く見つめ、知識を効果的に活用し、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて幅広く考え、粘り強く見方や感じ方を深めようとしている。 ■自己の作品の意図と関連させ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて気付かせるようにする。

参考資料①生徒作品例（感想・作者の言葉の記述例）



作品名 「Hater」

鏡の中の自分に問いかけている様子です。鏡の様子や手の質感、表情（視線）を納得いくまで描き直しました。私が今抱いている感情を観る人に伝えたいです。



作品名 「青い服の自画像」

いろいろな状況の中、絵を描くことが自分自身を支えていると感じました。顔の表情、手の形、服のしわ、手前の画材などから素の自分が表現できたと思います。



作品名 「トリミング」

構図を考える時のポーズをそのまま作品に取り入れ、私と私以外に切り取られた空間を表現しました。タッチや陰影に気をつけて描きました。

美術・表現と鑑賞『自己を見つめて（自画像を描く）』ワークシート

第 学年 組 / 氏名

■自分の性格や特徴などについて、下記のイメージマップにまとめながら考えを広げましょう



■自画像を制作する上で、作品の構図や配色などについてアイデアスケッチを描きましょう

自画像のテーマ、タイトル	A	B
画材		
構図～顔の向きなど	C	D
背景～自分以外に描くモノと自分との関係		
配色（色調）について		
その他・工夫してみたいこと		

※構図は縦横自由とする

芸術科（美術） 事例2（美術Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価、
評価方向やワークシートの活用例、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名

デザイナーになろう！
「宮城県・県制 150 周年記念
事業ロゴマークの制作」

内容のまとめ

「デザイン「A表現」(2) デザイン, [共通事項]」及び
「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」

〈関連する学習指導要領の内容〉

○「A表現」

(2) デザイン

デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や機能などを考えた発想や構想

(ア) 目的や条件, 美しさなどを考え, 主題を生成すること。

(イ) デザインの機能や効果, 表現形式の特性などについて考え, 創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に, 創造的に表す技能

(ア) 意図に応じて材料や用具の特性を活かすこと。

(イ) 表現方法を創意工夫し, 目的や計画を基に創造的に表すこと。

○「B鑑賞」

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞

(イ) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り, 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え, 見方や感じ方を深めること。

○〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形の要素の働きを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや作風, 様式などで捉えることを理解すること。

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

・造形の要素の働きを理解する。〔共通事項〕(1)ア)

・造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや作風, 様式などで捉えることを理解する。〔共通事項〕(1)イ)

・意図に応じて材料や用具の特性を生かす。「A表現」(2)イ(ア)

・表現方法を創意工夫し, 目的や計画を基に創造的に表す。「A表現」(2)イ(イ)

(2) 「思考力, 判断力, 表現力等」に関する題材の目標

・目的や条件, 美しさなどを考えて主題を生成する。「A表現」(2)ア(ア)

・デザインの機能や効果, 表現形式の特性などについて考え, 創造的な表現の構想を練る。「A表現」(2)ア(イ)

・目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り, 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え, 見方や感じ方を深める。「B鑑賞」(1)ア(イ)

(3) 「学びに向かう力, 人間性等」に関する題材の目標

・主体的にデザインの表現の創造活動に取り組む。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知技造形の要素を理解し、意図に応じて材料や用具の特性を生かし、制作の計画・見直しをもって創造的に表している。</p> <p>知技自身や他者の造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p>	<p>鑑デザインの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>発テーマや目的に合わせて主題を生成し、デザインの効果、表現形式について考え、表現の構想を練る。</p>	<p>態鑑身の回りにあるデザインとデザイナーの創作物との共通点などを感じ取り、主体的にデザインの表現の創造活動に取り組んでいる。</p> <p>態表主体的にデザインの表現の創造活動に取り組んでいる。</p> <p>態鑑作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているかどうかと創造活動に取り組む。</p>

3 指導と評価の計画（全8時間）

次	●学習のねらい ○学習活動 指導と評価	知技	思	態
1	<p>1. 作者と作品の鑑賞（1時間） 「私の考えるデザイン」「サインのデザイン」</p> <p>●「デザイン」とは何かについて、デザイナーの視点から作品を鑑賞し、作者の心情や制作のプロセスやコンセプトを学ぶことで見方や感じ方を深める。 ○5人のデザイナーそれぞれの①デザインの分野②大切にしていること③作品に込めた工夫の3つの視点でまとめる。 ○「東京2020オリンピック・パラリンピック招致エンブレム」のできるまでに作者が何を大切にし、どう工夫したのかワークシートにまとめる。また、デザイナーが制作から完成に至る流れの中で生徒自身が感じ取った感想をまとめる。</p> <p>鑑デザインの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているかを暫定的に評価する。できていない生徒に対して、デザイナーが語った言葉と実物のデザインがどのように生かされているのかなど具体例を示して指導を行う。【ワークシート】</p> <p>態鑑身の回りにあるデザインとデザイナーの創作物との共通点などの具体例を示し、生徒が身近にデザインを感じられる指導を行う。【ワークシート】</p>		<p>鑑</p> <p>↓</p> <p>鑑</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p> <p>態鑑</p>

2	<p>2. 発想や構想（2時間） ロゴマークのデザイナーになってみよう！ 宮城県・県制150周年記念事業ロゴマークの制作</p> <p>●記念事業のテーマを読み取り，主題を生成する。 ○ICT機器を使用したWEB閲覧，宮城県観光パンフレットなどで情報収集を行い，感じ取ったことや考えたことをロゴマークとして表現したい対象を見つめる。目的や条件を基に美しさとの調和を考えて主題を生成し，デザインがもつ機能や効果，表現形式の特性などについて考え，創造的な表現の構想を練る。</p> <p>発テーマや目的に合わせて主題を生成し，デザインの効果，表現形式について考え，表現の構想を練っているかどうかを評価する。できていない生徒に対しては調べ学習で集めた情報を整理させ，制作の目的を振り返りさせて考えを深めさせるなどの指導を行う。【アイデアスケッチ】</p>		<p>発 ↓</p> <p>発</p>	<p>態表 ↓</p>
3	<p>3. 技能「下描き」及び「彩色」（4時間）</p> <p>●発想や構想をしたことを基に，創造的に表現する。 ○構想のイメージを的確に表現するために，定規や筆などの用具の特性を活用する。 ○前時で学習した配色や調和などの色彩の学習を生かした配色計画を立てて，目的や計画を基に創造的に表す。</p> <p>知技造形の要素を理解し，意図に応じて材料や用具の特性を生かし，制作の計画・見通しをもって創造的に表しているかどうかを評価する。実現できていない生徒に対しては前時での学習の振り返りや，教員による技法の実演を見せることで見通しややり方のイメージを共有させる。【作品】</p> <p>態表主体的にデザインの表現の創造活動に取り組む態度を見取る。実現できていない生徒に対しては生徒同士の制作様子の観察や制作途中での鑑賞会，教員による技術指導等の指導を行う。【作品・机間巡視・発言内容】</p>	<p>知技 ↓</p> <p>知技</p>		<p>態表</p>

4	<p>4. 鑑賞【共通事項】「作品に込めた想いを文章にまとめる」 「友人のロゴマーク作品の鑑賞」（1時間）</p> <p>●誰に、何を、どのようなイメージで伝えるか生徒自身が設定したロゴマークの目的を具現化した上で、言葉を用いて考えを整理し、他者へ分かりやすく説明する文章を作成する。</p> <p>○友人の作品鑑賞を通して、表現の独自性や創造性、表現の意図に応じた工夫と表現の多様性を感じ取る。</p> <p>●生徒間での「審査会」 作品を出品する前に、制作した生徒同士による審査会を実施する。デザイナーとしての作り手の立場を体験したのちに「選ぶ立場」を経験することで、表現の工夫について考え、見方や感じ方を深める。生徒同士による本審査は観点別学習評価ではなく、主体的にデザインの表現の創造活動に取り組む態度として見取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>知技自身や他者の造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解しているかを暫定的に評価する。理解できていない生徒に対しては、イメージや作品を説明・表現するための語彙の具体例を示すなどの指導を行う【ワークシート】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>態鑑作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているかどうかと創造活動に取り組む態度として見取る。できていない生徒に対しては鑑賞する視点を与え、作者の心情について考えさせる指導を行う。【ワークシート・机間巡視・発言内容】</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">知技</div> ↓		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">態鑑</div> ↓
授業外題材の終了後	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>知技完成作品や発想や構想、鑑賞のワークシートなどから知技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート、アイデアスケッチ】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>発発想や構想の段階におけるアイデアスケッチ等を完成作品と併せて構図、主題等の変化や配色計画などを再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート、アイデアスケッチ】</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">知技</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">態鑑</div>

4 本事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価規準		◎Aの具体例 ■Cへの手立て
知	造形の要素の働きを理解している。造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。	◎形や色彩などデザインに用いられたそれぞれの造形の要素の働きを理解したり、造形的な特徴などを基に、デザインされた作品全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ■造形の要素の働きや、造形的な特徴が何なのか具体例を示しながら考えさせる。
技	意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。	◎意図に応じて多様な視点から材料や用具の特性を効果的に生かすとともに、表現方法について試行錯誤を重ねて創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。

		<p>■材料や用具の特性の生かし方や表現方法について実際に用具を用いて説明し、技法を試させたり、振り返らせることで生徒が表現したいことを整理させる。</p>
発	<p>目的や条件、美しさなどを考えて主題を生成し、デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p>	<p>◎目的や条件、美しさなどをより深く考えて主題を生成し、よりよく機能や効果、表現形式の特性を生かせるデザインについて考え、自己の創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>■目的や条件を確認し、集めた情報などを振り返り、目的に合った造形的な美しさなど、主題と表現の特性などについて考えさせる。</p>
鑑	<p>目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>◎様々な視点に立ち、目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて、自分自身の根拠を持ちながら関連付けて捉え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>■目的や主題から作品を見つめさせて作者の心情や意図を考えさせたり、これまで表現で学んだことや考えるための視点を与え、見方や感じ方が深められるようにする。</p>
態表	<p>主体的にデザインの表現の創造活動に取り組もうとしている。</p>	<p>◎より主体的に自ら進んでデザインの表現の創造活動に取り組み、表現の生かし方や知識を効果的に活用し、試行錯誤を繰り返しながら粘り強く創造的に表そうとしている。</p> <p>■身の回りとの関連を図ることでのデザインを身近に感じさせたり、生徒自身が表現したいことや集めた情報等の整理や、用具の正しい使い方を示すことで表現することへの苦手意識を払拭させるようにし、主題を追求して表現できるようにする。</p>

〈生徒作品と作品に込めた想いの記述例〉



150の「1」という数字は、「広瀬川」をイメージしました。「5」という数字の葉っぱは、宮城県は自然がいっぱいというところを表したくて描きました。シンプルなデザインで、色々な人が見てもわかりやすいロゴマークにしました。



150の「0」の所に宮城県らしい「緑色」に「伊達政宗」「ミヤギノハギ」をイメージして作りました。このロゴマークを通じてみんなに少しでも宮城県のことについて知ってもらいたいと思って制作しました。



形や色に宮城県の県旗と150周年の150という数字を組み合わせたものを作り、緑色で統一してデザインしました。このロゴマークを通じて、見た人に県制の記念が伝わりやすくなるようにと考えて、制作しました。

芸術科（美術） 事例3（美術Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価、
評価方法やワークシートの活用例、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名

「新しい生活様式のポスター」

内容のまとめり

「デザイン」「A表現」（2）、「共通事項」及び「作品
や美術文化などの鑑賞」「B鑑賞」、「共通事項」

<関連する学習指導要領の内容>

○「A表現」

（2）デザイン

デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や機能などを考えた発想や構想

（ア）目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。

（イ）デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

（ア）意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。

（イ）表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと。

○「共通事項」

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形の要素の働きを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）
- ・意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的にあらわす。（「A表現」(2)）

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどとの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。（「A表現」(1)）
- ・伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」(1)）

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に地域の人や訪れる人々に対して情報を分かりやすく伝えることなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、効果的な伝達のデザインを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的にあらわしている。</p>	<p>発 メッセージを伝える目的や伝える相手、内容や社会との関わりなどから主題を生み出し、絵や文字などの組み合わせの効果や、わかりやすさと美しさの調和などを総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 ポスターやピクトグラムなどの作品から美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し、見通しをもってあらわす表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 ポスターやピクトグラムなどの作品から美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝達デザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

3 指導と評価の計画（全12時間）

次	●学習のねらい ○学習活動	知技	思	態
1	<p>1. 作品の鑑賞（1時間）</p> <p>●ピクトグラムを鑑賞し、伝達のデザインに対する見方や感じ方を深めるとともに、形などの感情にもたらす効果や、統一感など全体のイメージで捉えることを理解する。</p> <p>○ピクトグラムを用いて「新しい生活様式」を学校内に周知するポスターをデザインすることを伝える。ユニバーサルデザインの観点を伝え、ピクトグラムデザインの意義や具体的な事例を示し、伝達する内容や目的を明確にさせる。</p> <p>知 造形的な視点に着目して、伝達のデザインにおける、統一感などについて理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して形などの効果を具体的に示しながら指導を行う。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>鑑 参考作品からピクトグラムの表現意図と創造的な工夫などについて考えたりすることができているかを見取り、見方や感じ方が深まらない生徒に対して、ピクトグラムの機能や効果、表現形式の特性について考えさせたりするなどの指導を行う。【ワークシート、活動の様子】</p>	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p>

	<p>態鑑 伝達のデザインに興味や関心をもち、形などの性質などを理解しようとしたり、調和のとれた洗練された美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図や創造的な工夫などについて考えているかどうかを見取り、できていない生徒に対して、身近な伝達のデザインを紹介したり、見る人の視点に立たせるなどの指導を行う。 【ワークシート、活動の様子】</p> <p>鑑 ここでは生徒が、伝達のデザインに対する見方や感じ方を深められたかどうかを評価する。【ワークシート】</p> <p>態鑑 主体的に伝達のデザインの形などの効果や全体のイメージで捉えながら、見方や感じ方を深めようとしているかを評価する。【ワークシート、活動の様子】</p>		<p style="text-align: center;">⋮</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">鑑</div>	<p style="text-align: center;">⋮</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">態鑑</div>
2	<p>2. 発想や構想（3時間）</p> <p>●主題を生成する。</p> <p>○「新しい生活様式」について、厚生労働省のホームページなどから情報を入手する。これまでの生活と比較することで、「新しい生活様式」を正しく理解する。また、鑑賞の学習で学んだことを生かしながら、伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出す。</p> <p>発 「新しい生活様式」を理解し、伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出せているかどうかを見取り、主題が生み出せていない生徒に対して、伝える相手やピクトグラムを使用する場所について確認させたり「新しい生活様式」について考えさせたりするなどの手立てを講じる。【アイデアスケッチ】</p> <p>態表 主題を生み出そうとする態度を見取り、主体的に活動できていない生徒に対して、鑑賞の学習での内容について振り返りをさせたり、伝える相手や地域の特徴的なものなど具体的な内容について考えさせたりするなどの指導を行う。【アイデアスケッチ、活動の様子】</p> <p>●主題を基に構想を練る</p> <p>○このポスターは学校での掲示を想定しており、どのような人がポスターを見るのかを想定し、アイデアを膨らませる。ポスターを掲示された状況を想定し、そのポスターを見た人がどのようなことを感じ取り、行動を変化させるかを想像しながら構想を練る。</p> <p>発 主題を基に絵や文字などの組み合わせの効果や、わかりやすさと美しさの調和などを総合的に考え、表現の構想を練っているかどうかを見取り、指導する。構想が練れていない生徒に対して再度主題を確認させたり、伝える相手や施設、場所とメッセージを伝える目的を考えさせたりする。【アイデアスケッチ、ワークシート】</p>		<p style="text-align: center;">発</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">態表</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">↓</p>

	<p>態表 主体的に構想を練ろうとしているかを見取り、できていない生徒に対して、鑑賞の活動での様々な地域や場所で使われているピクトグラムにおける伝達のデザインの意図や表現の工夫などについて、形などの性質や統一感などの視点から再度考えさせる。【アイデアスケッチ、活動の様子】</p> <p>発 伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、授業外で、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。【アイデアスケッチ】</p> <p>態表 生徒が主体的に知識を活用しながら、発想や構想の学習活動に取り組もうとする態度を評価する。【アイデアスケッチ、活動の様子】</p>		<p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">発</p>	<p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">態表</p>
3	<p>3. 制作（7時間）</p> <p>●発想や構想を基に、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通しをもって表す。</p> <p>○形などが感情にもたらす効果を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。また、制作の途中で鑑賞を行い、客観的な視点に立って他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより、表したいものをより一層明確にしていくなどしながら作品を完成させる。</p> <p>技 形などが感情にもたらす効果を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら表しているかどうかを見取り、できていない生徒には、発想や構想を確認させたり、他の生徒の作品を紹介するなどして表現の表し方の工夫について考えさせたりするような指導を行う。【制作途中の作品】</p> <p>発 この段階で構想などがまとまらない生徒を中心に見取り、指導を行う。【制作途中の作品】</p> <p>態表 主体的に表現方法を創意工夫しようとしたり、見通しをもって表そうとしたりしている態度を見取り、できていない生徒に対して形や線の描き方による印象の違いなどに気付かせながら、表現の工夫などについての意欲を高めるような指導を行う。【制作途中の作品、活動の様子】</p>	<p style="text-align: center;">技</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">▽</p>	<p style="text-align: center;">発</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">▽</p>	<p style="text-align: center;">態表</p> <p style="text-align: center;">⋮</p> <p style="text-align: center;">▽</p>

	<p>知・技 作品から、意図に応じて表現方法を創意工夫して表しているかなどを見取るとともに、形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【作品、アイデアスケッチ、ワークシート等】</p> <p>態表 主体的に制作に取り組み、形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、見通しをもち意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品、活動の様子】</p>	<p>知・技</p>		<p>態表</p>
4	<p>4. 鑑賞</p> <p>●生徒作品を鑑賞し、伝達のデザインについての見方や感じ方を深める。</p> <p>○お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合い、主題と表現の関係や、意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>知 形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容】</p> <p>鑑 態鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることなどができているかどうかなどと、取り組む態度とをそれぞれ見取り、できていない生徒に対して主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】</p> <p>態鑑 主体的に作品を鑑賞し、形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。【ワークシート、活動の様子】</p>			<p>態鑑</p>
	<p><授業外：題材が終了後></p> <p>知・技 完成作品や表現及び鑑賞のワークシート、ペーパーテストなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート、ペーパーテスト】</p> <p>鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方が深められているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>発 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】</p>	<p>知・技</p>	<p>鑑</p> <p>発</p>	

4 事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価基準		◎Aの具体例 ■Cへの手立て
知	形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、効果的な伝達のデザインを全体のイメージで捉えることを理解している。	◎伝達のデザインにおける形などの性質やそれらが感情にもたらす効果を多様な視点から理解していたり、幅広い視野に立って場所や造形的な特徴などを基に、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などをより深く全体のイメージなどで捉えたりすることを理解している。 ■形などの性質やそれらが感情にもたらす効果をより実感的に理解できるよう、身近な体験などと関連付けて考えさせる。
技	意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的にあらわしている。	◎表現の意図に応じて、形などが感情にもたらす効果を意識しながら試行錯誤を重ね、より洗練されたデザインになるように創意工夫をし、明確に完成までの見通しをもってよりよく創造的に表している。 ■形などの効果を再度確認させることや、用具の特性や扱い方について実演を行いながら説明したり、主題を確認させて生徒自身の表したいことを整理させるなど制作の手順を繰り返し確認させたりしながら、見通しがもてるようにする。
発	メッセージを伝える目的や伝える相手、内容や社会との関わりなどから主題を生み出し、絵や文字などの組み合わせの効果や、わかりやすさと美しさの調和などを総合的に考え、表現の構想を練っている。	◎より具体的に伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出し、主題をよりよく表現するために、形などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを多様な視点から総合的に考え、より伝わりやすい表現の構想を練っている。 ■生徒の主題と、形などが感情にもたらす効果などの関係を確認させて、再度主題について考えさせたり、統一感のある作品を用いたりして、構想について考えさせる。
鑑	伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	◎伝達のデザインの造形的な特徴などから伝達の効果と調和のとれた洗練された美しさなどを深く感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて幅広く考え、生活の中のデザインの役割など、多様な視点に立って見方や感じ方を深めている。 ■生徒自身の表現の活動における主題と表現の意図と工夫について振り返らせて、表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方を深められるようにする。
態表	ポスターやピクトグラムなどの作品から美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し、見通しをもってあらわす表現の創造活動に取り組もうとしている。	◎主体的に深く表現の活動に取り組み、分かりやすさと美しさとの洗練された表現を目指して知識を活用しようとし、独創的な視点から創意工夫して表現の構想を練ろうとしたり、意図をよりよく表すために表現方法の試行錯誤を重ねて創意工夫し、見通しをもちながら粘り強く表そうとしたりしている。 ■実感をもちながら表現ができるよう、身近な生活の中で使われているピクトグラムを用いて形などの効果について考えさせたり、鑑賞の活動の振り返りをさせたりしながら新たな伝達のデザインの作品を見せるなどして表現の工夫などに

		ついでに意欲を高めるよう指導を行う。
鑑賞態	ポスターやピクトグラムなどの作品から美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝達デザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	<p>◎主体的に深く鑑賞の活動に取り組み、独創的な視点で伝達のデザインの効果と調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取ろうとしたり、知識を活用しようとし、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えようとするなどして、見方や感じ方を深めようとしている。</p> <p>■自他の作品の意図や創造的な工夫などから、伝達のデザインの効果と造形的な特徴との関係性などを多様な視点で考えさせるようにする。</p>

芸術科（美術） 事例4（美術Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価、
評価方法やワークシートの活用例、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名

「贈りたい人を思いながら
餌肥杉のランプシェードを作ろう」

内容のまとめり

「デザイン」「A表現」（2）、〔共通事項〕及び「作者の心情や意図と創造的な表現の鑑賞」「B鑑賞」、〔共通事項〕

<関連する学習指導要領の内容>

○「A表現」

（2）デザイン

デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や機能などを考えた発想や構想

（ア）目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。

（イ）デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

（ア）意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。

（イ）表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと。

○〔共通事項〕

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形の要素の働きを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、効果的なデザインを全体のイメージで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）
- ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし、目的や計画をもとに創造的にあらわす。（「A表現」（2））

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・使用目的や条件、光と陰影の美しさなどを考え、贈りたい人を思いながら主題を生みだし、ランプシェードの機能や効果などについて考え、創造的な表現の構想を練る。（「A表現」（2））
- ・社会的な視点に立ってランプシェードの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」（1））

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・人間の美的要求やコミュニケーションを基盤として、客観的な視点に立ち、目的や条件などに応じて、美しさや調和、機能や役割、伝える人や使う人の気持ちや行為、公共性や社会性などを考えてあらわす。

2 題材の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、効果的なデザインを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、目的や計画のもとに創造的にあらわしている。</p>	<p>発 使用目的や条件、光と陰影の美しさなどを考え、贈りたい人を思いながら主題を生みだし、ランプシェードの機能や効果などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 社会的な視点に立ってランプシェードの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に人間の美的要求やコミュニケーションを基盤として、客観的な視点に立ち、目的や条件などに応じて、機能や役割、伝える人や使う人の気持ちを考えて表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に人間の美的要求やコミュニケーションを基盤として、美しさや調和、伝える人や使う人の気持ちを考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

3 指導と評価の計画（全12時間）

次	●学習のねらい ○学習活動	知技	思	態
1	<p>1. 作品の鑑賞（1時間）</p> <p>● 飴肥杉ランプシェードの参考作品を鑑賞しながら、創造的な表現の構想を練り、材料や用具の特性を生かし、目的や計画を創造的に表すことの意義を知る。</p> <p>○ 「贈りたい人」を思いながらデザイン・制作されたランプシェードの魅力を感じ取り、あわせて材料の飴肥杉シート of 美しさや特性を理解して自らのデザインに生かすポイントについて学ぶ。</p> <p>鑑 態鑑 複数の参考作品のよさや美しさを感じ取ったり作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えたりすることができているかと、創造活動に取り組む態度を見取る。できていない生徒に対して、主題の内容から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【ワークシート、活動の様子】</p> <p>知 鑑賞の学習活動を通して、主題と表現の関係や意図と表現の工夫などから、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを見取る。理解していない生徒に対して、形や色彩の部分や作品全体、それぞれの作品の作風などに着目させて理解できるようにするなどの指導を行う。【ワークシート、活動の様子】</p> <p>鑑 ランプシェードの造形的なよさや美しさや、作者の心情や意図を感じたりすることができたかどうかと、制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などを考えることができたかどうかを評価する。【ワークシート】</p> <p>態鑑 主体的に美しさや調和、伝える人や使う人の気持ちを考え、見方や感じ方を深めようとしているかを評価する。【ワークシート、活動の様子】</p>	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p>
			<p>鑑</p>	<p>態鑑</p>

2	<p>2. 発想や構想 (3時間)</p> <p>●美しく親しみやすい表現となるように構想を練ることや、造形の要素の働きについての理解を深めて主題を生成し、構想に生かすことの必要性を知る。</p> <p>○アイデアスケッチや言葉により、考えを整理したりしたものを基に、生徒同士の批評し合う活動を通して、他者のアイデアなども参考にしながら自分の発想をより深めることを学ぶ。</p> <div data-bbox="849 226 1067 539" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="261 613 1082 846" data-label="Text"> <p>発 美しく親しみやすい表現となるように構想を練ることや、造形の要素の働きについての理解を深めて主題を生成しているかどうかを見取り、主題が生成できていない生徒に対して、美しく親しみやすい表現について考えさせたりするなどの指導を行う。 【ワークシート、アイデアスケッチ、発言の内容】</p> </div> <p>●デザインにおける構想では、材料と技法を適切に組み合わせることが必要であり、デザインの表現形式の特性などを理解し、見通しをもって考えることが大切であることを知る。</p> <p>○アイデアスケッチを基にして工作用紙を使用した実物大の立体模型を制作する。この段階が、材料の紙の加工に重要であることを学ぶ。</p> <div data-bbox="849 880 1067 1193" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="261 1227 1082 1384" data-label="Text"> <p>発 主題の生成について意欲的に取り組めていない生徒を見取り、主題が生成できていない生徒に対して、贈りたい人のことを考えさせたりするなどの指導を行う。 【ワークシート、活動の様子】</p> </div> <div data-bbox="261 1417 1082 1653" data-label="Text"> <p>態表 構想について意欲的に取り組めていない生徒を見取り、伝える人や使う人の気持ちを再度考えさせたり、造形の要素が感情にもたらす効果や、全体のイメージやなどの造形的視点に立って考えさせたりするなどの指導を行う。 【ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子】</p> </div> <div data-bbox="261 1686 1082 1921" data-label="Text"> <p>発 構想がまとまらない生徒を中心に見取り、できていない生徒に対して、再度、主題を見直させたり、造形の要素の効果と主題との関係について考えさせたり、主題にもとづいた全体のイメージを捉えさせたりするなどの指導を行う。 【ワークシート、アイデアスケッチ】</p> </div>		<div data-bbox="1225 226 1294 309" data-label="Text"> <p>発</p> </div> <div data-bbox="1241 315 1273 421" data-label="Image"> </div>	<div data-bbox="1332 226 1401 309" data-label="Text"> <p>態表</p> </div> <div data-bbox="1348 315 1380 421" data-label="Image"> </div>

	<p>知 主題を基に構想を練る段階で、第一次（1. 作品の鑑賞）で学習した造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることが出来ているかを見取る。理解していない生徒に対して、再度、形や色の部分や作品全体のイメージや作風などで捉えることに着目させるなどして理解が深まるよう指導を行う。【ワークシート、アイデアスケッチ】</p> <p>発 美しく親しみやすい表現となるように構想を練っているかや、造形の要素の働きについての理解を深めて主題を生成しているかどうかを暫定的に評価し、授業外で、主題や構想の工夫などを記述したワークシートなどを完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正する。【ワークシート、アイデアスケッチ】</p> <p>態表 生徒が主体的に知識を活用しながら、発想や構想の創造活動に取り組み、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、生成した主題をよりよく表すために創造的に構想を練ろうとする態度を評価する。【ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子】</p>		<p style="text-align: center;">-----</p> <p style="text-align: center;">発</p>	<p style="text-align: center;">-----</p> <p style="text-align: center;">態表</p>
3	<p>3. 創造的な表現（7時間）</p> <p>●生徒一人一人が発想や構想をしたことを基に、自分の表現を具体化するために、意図に応じて材料や用具の特性を生かし、計画や手順を考え創造的に表すことを知る。</p> <p>○デザインの目的や計画に基づいて、どのように表現したいかということをも明確に意識し、その実現のためには、見通しをもって計画的で創造的に表すことを学ぶ。</p> <p>技 態表 発想や構想をしたことなどを基に、意図に応じて材料や用具の特性を生かしたりして表したりしているか、意欲的に主題を追求しているかなどの態度を見取る。実現できていない生徒に対して、主題をもう一度見直させたり、表現の意図と材料や用具の特性とを関連させて再考させたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品、活動の様子】</p> <p>発 材料や用具の選定やデザインなどがまとまらない生徒を中心に見取り、再度、主題や構想を確認させるなどの指導を行う。【制作途中の作品】</p> <p>知 造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることができていないかを見取り、理解できていない生徒に対して再度指導を行う。【制作途中の作品】</p>	<p style="text-align: center;">技</p> <p style="text-align: center;">-----</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">発</p> <p style="text-align: center;">-----</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">態表</p> <p style="text-align: center;">-----</p> <p style="text-align: center;">↓</p>

	<p>知・技 作品や材料や用具の特性の生かし方，表現方法の創意工夫，主題を追求してあらわしているかなどを見取るとともに，造形の要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを併せて見取り，知と技を知・技として一体的に評価する。【作品，ワークシート，アイデアスケッチ】</p> <p>発 主題の変化や材料や用具の選定，機能や効果などの構想を含めて，発想や構想を再度見取り，評価する。【作品】</p> <p>態表 主体的に制作に取り組み，人間の美的要求やコミュニケーションを基盤として，客観的な視点に立ち，目的や条件などに応じて，機能や役割，伝える人や使う人の気持ちを考えて主題を追求して創造的にあらわそうとしている態度を評価する。【活動の様子，作品】</p>	<p>知・技</p>	<p>発</p>	<p>態表</p>
<p>4</p>	<p>4. 作品の鑑賞（1時間）</p> <p>●作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深める。</p> <p>○グループで対話しながらお互いの作品を鑑賞し，作品の魅力や主題，技法的な工夫について共有することを学ぶ。</p>  <p>鑑 態鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深めているかどうかと，学習に取り組む態度とを見取る。できていない生徒に対して主題から作品を見つめさせたり，作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【発言の内容，ワークシート，活動の様子】</p> <p>知 造形の要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることが理解できているかどうかを見取り，理解していない生徒に対して，再度，指導を行う。【発言の内容，ワークシート】</p> <p>態鑑 主体的に作品を鑑賞して，人間の美的要求やコミュニケーションを基盤として，客観的な視点に立ち，目的や条件などに応じて，機能や役割，伝える人や使う人の気持ちを考えたようしたり，社会的な視点に立ってランプシェードの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方，技法などについて考えようとしていたりしているかを評価する。【活動の様子，ワークシート】</p>	<p>知</p>	<p>鑑</p>	<p>態鑑</p>

	<p><授業外：題材の終了後></p> <p>知・技 完成作品や発想や構想，鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し，必要に応じて修正する。【完成作品，ワークシート，アイデアスケッチ】</p> <p>鑑 社会的な視点に立ってランプシェードの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方，技法などについて考えて，見方や感じ方を深められているかを見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>発 発想や構想の段階におけるワークシートなどを完成作品と併せて，主題の変化や材料や用具の選定，機能や効果などを再度見取り，必要に応じて修正する。【完成作品，ワークシート，アイデアスケッチ】</p>	<p style="text-align: center;">知・技</p>	<p style="text-align: center;">鑑</p> <p style="text-align: center;">発</p>	
--	---	--	---	--

4 本事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価基準		◎Aの具体例 ■Cへの手立て
知	形や色などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，効果的なデザインを全体のイメージで捉えることを理解している。	<p>◎形や色などが感情にもたらす効果を多様な視点から理解したり，幅広い視野に立って造形的な特徴などを基に，「贈りたい人」を思い，全体のイメージなどで捉えることを理解したりしている。</p> <p>■形や色などが感情にもたらす効果をより実感的に理解できるように，具体例を示しながら考えさせる。</p>
技	意図に応じて材料や用具の特性を生かし，目的や計画をもとに創造的にあらかわしている。	<p>◎意図に応じて多様な視点から材料や用具の特性を効果的に生かすとともに，目的を明確にして計画を立てて主題をあらゆる可能性から追求して創造的にあらかわしている。</p> <p>■材料や用具の特性の生かし方について，実際に材料や用具の特性を用いながら説明し，試させたり，目的や計画を確認させて生徒自身があらかわしたいことを整理させたりする。</p>
発	使用目的や条件，光と陰影の美しさなどを考え，贈りたい人を思いながら主題を生みだし，ランプシェードの機能や効果などについて考え，創造的な表現の構想を練っている。	<p>◎使用目的や条件と，光と陰影の美しさを考慮したデザインを追求し，贈りたい人をイメージして主題を生成し，よりよく表現形式の特性を生かし，知識を効果的に活用しながら幅広く形体や構成などのついて考え，創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>■使用目的や条件を考えさせたり，ランプシェードの機能や効果を考えさせたりしながら，主題と造形の要素の効果や構成などとの関係について考えさせる。</p>

鑑	<p>社会的な視点に立ってランプシェードの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方，技法などについて考え，見方や感じ方を深めている。</p>	<p>◎社会的な視点に立ってランプシェードの造形的なよさや美しさをより深く感じ取り，知識を効果的に活用しながら作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方，技法などについて自分としての根拠を持ちながら関連付けて捉え，見方や感じ方を深めている。</p> <p>■主題から作品を見つめさせたり，作者の心情について考えさせたりすることや，自己の表現の活動を振り返らせて，表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方が深められるようにする。</p>
態表	<p>主体的に人間の美的要求やコミュニケーションを基盤として，客観的な視点に立ち，目的や条件などに応じて，機能や役割，伝える人や使う人の気持ちを考えて表現の創造活動に取り組もうとしている。</p>	<p>◎より主体的に自ら進んで表現の創作活動に取り組み，よりよい表現を目指して，表現形式の特性の生かし方について考えようしたり，知識を効果的に活用し，形体やデザインなどについて試行錯誤を重ねて創意工夫したりして粘り強く創造的にあらわそうとしている。</p> <p>■生徒自身にあらわしたいことを整理させ，様々な材料や用具，表現形式について具体的に示し，それらの生かし方から主題を基にした構想を練らせたり，主題を追求してあらわすことができるようにしたりする。</p>
態鑑	<p>主体的に人間の美的要求やコミュニケーションを基盤として，美しさや調和，伝える人や使う人の気持ちを考え，見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>	<p>◎より主体的に自ら進んで鑑賞の創造活動に取り組み，作品にあらわされたデザインを深く感じ取り，知識を効果的に活用し，作者の心情や意図を創造的な表現の工夫などについて幅広く考え，粘り強く見方や感じ方を深めようとしている。</p> <p>■自己の作品の意図と関連させ，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて気付かせるようにする。</p>



芸術科（美術） 事例5（美術Ⅰ）

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価、
評価方法やワークシートの活用例、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名

「学校紹介映像を制作しよう」

内容のまとめり

「映像メディア表現「A表現」(3), [共通事項]」及
び「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」, [共通事項]」

<関連する学習指導要領の内容>

○「A表現」

(3) 映像メディア表現

映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想

(ア) 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。

(イ) 色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(ア) 意図に応じて映像メディア機器などの用具の特性を生かすこと。

(イ) 表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すこと。

○ [共通事項]

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形の要素の働きを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色彩、光が感情にもたらす効果や、空間や遠近感などの造形的な特徴を基に、効果的な映像表現を全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解する。([共通事項])
- ・意図に応じて映像メディア機器などの用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し、制作手順を考えながら創造的にあらわす。('A表現')(3))

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成し色光や視点、動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な構成を工夫し表現の構想を練る。('A表現')(3))
- ・映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深める。('B鑑賞')(1))

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・映像作品から主体的に色光や視点、動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考えて表現したり鑑賞したりする創造活動に取り組む。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩，光が感情にもたらす効果や，空間や遠近感などの造形的な特徴を基に，効果的な映像表現を全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて映像メディア機器などの用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し，制作手順を考えながら創造的にあらかわしている。</p>	<p>発 感じ取ったことや考えたこと，目的や機能などを基に，映像メディアの特性を生かして主題を生成し色光や視点，動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考え，創造的な構成を工夫し表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え，見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 映像作品から主体的に色光や視点，動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考えて表現の創造活動に取り組んでいる。</p> <p>態鑑 映像作品から主体的に映像メディア表現の特質や表現効果を感じ取る鑑賞の創造活動に取り組んでいる。</p>

3 指導と評価の計画（全18時間）

次	●学習のねらい ○学習活動	知技	思	態
1	<p>1. 作品の鑑賞（2時間）</p> <p>●過去の作品や他校の映像を鑑賞しながら，映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について理解する。</p> <p>○「見てもらいたい人」（中学生）を考えながら，制作された映像作品から，学校のイメージや特徴，生徒の活動などを感じ取り，映像表現の方法や作業工程を理解して自分の映像表現に生かす。</p> <p>鑑 態鑑 参考作品から映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り作者の心情や意図と制作過程における工夫や，技法などについて考えたりすることができているかと，創造活動に取り組む態度を見取る。できていない生徒に対して，主題の内容から作品を見つめさせたり，作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【ワークシート，活動の様子】</p> <p>知 主題を基に構想を練る段階で，第一次（1. 作品の鑑賞）で学習した造形の要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることが出来ているかを見取る。理解していない生徒に対して，再度，形や色の部分や作品全体のイメージや作風などで捉えることに着目させるなどして理解が深まるよう指導を行う。【ワークシート，アイデアスケッチ】</p> <p>鑑 作品を鑑賞し，映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り，作者の心情や意図と制作過程における工夫や，技法などについて考えたりして見方や感じ方を深めているかどうかを評価する。【ワークシート，活動の様子】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">知</div> <p>⋮</p> <p>∨</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">鑑</div> <p>⋮</p> <p>∨</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">態鑑</div> <p>⋮</p> <p>∨</p>

	<p>態鑑 主体的に作品を鑑賞して、色光や視点、動きなど映像表現の視覚的な要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考えたりするなどの学習に取り組む態度を評価する。【ワークシート、活動の様子】</p>		<p>鑑</p>	<p>態鑑</p>
2	<p>2. 発想や構想（6時間）</p> <p>●伝えたい内容を基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成し、色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練る。</p> <p>○3～4人のグループを組み、学校の特色や中学生に伝えたい事等を挙げ、テーマを決める。アイデアスケッチや絵コンテを作成し、映像の場面をイメージする。また挿入する音楽やナレーション等も考えながら、イメージした内容を共有し、撮影計画を立案する。</p> <p>発 伝えたい内容を基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成し、色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて理解しているかを見取り、できていない生徒に対して伝えたい内容を考えさせたり、映像表現の視覚的効果を再度確認させたりするなどの指導を行う。【ワークシート、アイデアスケッチ、発言の内容】</p> <p>知 鑑賞の学習活動を通して、主題と表現の関係や意図と表現の工夫などから、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを見取る。理解していない生徒に対して、形や色彩の部分や作品全体、それぞれの作品の作風などに着目させて理解できるようにするなどの指導を行う。【ワークシート、活動の様子】</p> <p>技 意図に応じて映像メディア機器などの特性を生かして表現方法を創意工夫しているかを見取り、できていない生徒に対して制作手順を再度確認させたりするなどの指導を行う。【ワークシート、アイデアスケッチ、活動の様子】</p> <p>●制作意図に応じて映像メディア機器などの用具の特性を生かすとともに表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すことができるようにする。</p> <p>○使用する機材や撮影技術、コンピュータソフトを使用した編集についてサンプル作品を用いながら制作過程のシミュレーションをする。</p>	<p>技</p> <p>↓</p>	<p>発</p> <p>↓</p>	<p>態表</p> <p>↓</p>

	<p>発 構想がまとまらない生徒を中心に見取り，できていない生徒に対して，再度，主題を見直させたり，造形の要素の効果と主題との関係について考えさせたり，主題にもとづいた全体のイメージを捉えさせたりするなどの指導を行う。【ワークシート，アイデアスケッチ】</p> <p>態表 意欲的に取り組めていない生徒を見取り，伝える内容や映像表現の視覚的效果を再度考えさせたり，全体のイメージなど客観的視点に立って考えさせたりするなどの指導を行う。【ワークシート，アイデアスケッチ，活動の様子】</p> <p>発 映像メディアの特性を生かして主題を生成し色光や視点，動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考え，創造的な構成を工夫し表現の構想を練っているかどうかを暫定的に評価し，第3次（3，制作）で再度評価を行う。【アイデアスケッチ，活動の様子】</p> <p>態表 主体的に発想や構想の活動に取り組み，映像表現の視覚的な要素の働きや，全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし，生成した主題をよりよくあらわすために創造的な構想を練ろうとする態度を評価する。【ワークシート，アイデアスケッチ，活動の様子】</p>		<p style="text-align: center;">――― ↓ 発</p>	<p style="text-align: center;">――― ↓ 態表</p>
3	<p>3. 創造的な表現（8時間）</p> <p>●テーマを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解し，意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かす。</p> <p>○ビデオカメラや三脚，マイク等の周辺機器を分担し，撮影計画に従って撮影に臨む。意図した映像を撮影するための方法等を話し合い，連携を取りながら撮影する。また予備撮影や意図しない映像等，数多くのカットを撮影し，編集の材料として保存する。</p> <p>技 態表 発想や構想をしたことなどを基に，意図に応じて材料や用具の特性を生かしたりして表したりしているかや，意欲的に主題を追求しているかなどの態度を見取る。実現できていない生徒に対して，主題をもう一度見直させたり，表現の意図と材料や用具の特性とを関連させて再考させたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】</p> <p>発 主題を基に，形や色彩，光が感情にもたらす効果や，空間や遠近感などの造形的な特徴を考えながら構想を練られているかを見取り，できていない生徒に伝えたい内容を再考させたり，再度全体のイメージや作風などで捉えさせたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】</p>		<p style="text-align: center;">発 ↓ ▽</p>	<p style="text-align: center;">態表 ↓ ▽</p>

	<p>●表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表す。 ○コンピュータソフトを用いた編集を行う。テーマに合うカットを取捨選択し、学校の特色や伝いたい内容のカットをさらに絞りこむ。音楽やナレーション等を挿入する。</p> <p>発 構想がまとまらない生徒を中心に見取り、できていない生徒に対して、再度、伝えたい内容を考えさせたり、映像表現の視覚的効果を再度確認させたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品、活動の様子】</p> <p>知 造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることができているかを見取り、理解できていない生徒に対して再度指導を行う。【制作途中の作品】</p> <p>知・技 作品や映像メディア機器などの用具の特性の生かし方、表現方法の創意工夫、主題を追求してあらわしているかを見取るとともに、形や色彩、光が感情にもたらす効果や、空間や遠近感などの造形的な特徴を基に、効果的な映像表現を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【作品、ワークシート、アイデアスケッチ】</p> <p>発 主題の変化や材料や用具の選定、機能や効果などの構想を含めて、発想や構想を再度見取り、評価する。【作品】</p> <p>態表 主体的に取り組み、色光や視点、動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考えて主題を追求して創造的にあらわそうとしている態度を評価する。【活動の様子、作品】</p>	<p style="text-align: center;">知・技</p>	<p style="text-align: center;">発</p>	<p style="text-align: center;">態表</p>
4	<p>4. 鑑賞（2時間）</p> <p>●映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深める。 ○作品の良いところや伝わった点を話し合いながら、作品への理解を深める。鑑賞後の気持ちや、学校に対するイメージ等の変化があったか話し合う。</p> <p>鑑 態鑑 主題を表現するための映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているかどうかと、学習に取り組む態度とを見取る。できていない生徒に対して主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート、活動の様子】</p>	<p style="text-align: center;">知</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">鑑</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">態鑑</p> <p style="text-align: center;">↓</p>

	<p>知 形や色彩，光が感情にもたらす効果や，空間や遠近感などの造形的な特徴を基に，効果的な映像表現を全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解できているかどうかを見取り，理解していない生徒に対して，具体例を示すなどして指導を行う。【発言の内容，ワークシート】</p> <p>態鑑 主体的に作品を鑑賞して，映像メディア表現の特質や表現効果を感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え，見方や感じ方を深めようとしていたりしているかを評価する。【活動の様子，ワークシート】</p>			<p style="text-align: center;">-----</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">態鑑</div>
	<p><授業外：題材の終了後></p> <p>知・技 完成作品や発想や構想，鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し，必要に応じて修正する。【完成作品，ワークシート，アイデアスケッチ】</p> <p>鑑 映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考えて，見方や感じ方を深められているかを見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>発 発想や構想の段階におけるワークシートなどを完成作品と併せて，主題の変化や材料や用具の選定，機能や効果などを再度見取り，必要に応じて修正する。【完成作品，ワークシート，アイデアスケッチ】</p>	<p style="text-align: center;">-----</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">知・技</div>	<p style="text-align: center;">-----</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">鑑</div> <p style="text-align: center;">-----</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">発</div>	

4 本事例における観点別学習状況の判断の例

題材の評価基準		◎Aの具体例 ■Cへの手立て
<p>知</p>	<p>形や色彩，光が感情にもたらす効果や，空間や遠近感などの造形的な特徴を基に，効果的な映像表現を全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。</p>	<p>◎形や色彩，光が感情にもたらす効果を多様な視点から理解したり，幅広い視野に立って空間や遠近感などの造形的な特徴などを基に，伝えたい内容を効果的な映像表現で全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解したりしている。</p> <p>■形や色彩，光が感情にもたらす効果をより実感的に理解できるように，具体例を示しながら考えさせる。</p>
<p>技</p>	<p>意図に応じて映像メディア機器などの用具の特性を生かして表現方法を創意工夫し，制作手順を考えながら創造的にあらかわしている。</p>	<p>◎意図に応じて多様な視点から映像メディア機器などの用具の特性を生かすとともに，表現方法を試行錯誤しながら創意工夫し，制作手順を考え主題をあらゆる可能性から追求して創造的にあらかわしている。</p> <p>■映像メディア機器など用具の特性の生かし方について，実際に材料や用具の特性を用いながら説明し，試させたり，制作手順を確認させて生徒自身があらかわしたいことを整理させたりする。</p>

<p>発</p>	<p>感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成し色光や視点、動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な構成を工夫し表現の構想を練っている。</p>	<p>◎幅広い視点から感じ取ったことや考えたこと、伝えたい内容から目的や機能を基に映像メディアの多彩な特性に着目し、主題を生成するために色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な構成を工夫し表現する構想を練っている。</p> <p>■伝えたい内容を再考させたり、全体のイメージや作風などで捉え、映像表現の視覚的効果を再度確認させたりする。</p>
<p>鑑</p>	<p>映像メディアの特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>◎多様な視点に立って映像メディアの特質や表現効果などを深く感じ取り、知識を効果的に活用しながら作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて、自分としての根拠をもちながら関連付けて捉え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>■主題から作品を見つめさせたり、作者の心情について考えさせたりすることや、自己の表現の活動を振り返らせて、表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方が深められるようにする。</p>
<p>態表</p>	<p>映像作品から主体的に色光や視点、動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて考えて表現の創造活動に取り組んでいる。</p>	<p>◎より主体的に自ら進んで表現の創作活動に取り組み、よりよい表現を目指して、表現形式の特性の生かし方について考えようしたり、知識を効果的に活用し、色光や視点、動きなど映像表現の視覚的な要素の働きについて試行錯誤を重ねて創意工夫したりして粘り強く創造的にあらわそうとしている。</p> <p>■生徒自身にあらわしたいことを整理させ、様々な材料や用具、表現形式について具体的に示し、それらの生かし方から主題を基にした構想を練らせたり、主題を追求してあらわすことができるようにしたりする。</p>
<p>態鑑</p>	<p>映像作品から主体的に映像メディア表現の特質や表現効果を感じ取る鑑賞の創造活動に取り組んでいる。</p>	<p>◎より主体的に自ら進んで鑑賞の創造活動に取り組み、作品にあらわされた映像表現を深く感じ取り、知識を効果的に活用し、作者の心情や意図を創造的な表現の工夫などについて幅広く考え、粘り強く見方や感じ方を深めようとしている。</p> <p>■自己の作品の意図と関連させ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて気付かせるようにする。</p>

芸術科（美術） 事例6（美術Ⅰ）
キーワード 「知識」を活用した対話による鑑賞の評価

題材名
「対話による鑑賞」
～鑑賞から膨らむイメージ～

内容のまとめり
「作品や美術文化などの鑑賞〔B鑑賞〕,〔共通事項〕」

<関連する学習指導要領の内容>

○「B鑑賞」

(1) 鑑賞

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深めること。

イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞

(ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り，自然と美術の関わり，生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え，見方や感じ方を深めること。

(イ) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り，日本の美術の歴史や表現の特質，それぞれの国の美術文化について考え，見方や感じ方を深めること。

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

・〔共通事項〕

余白や空間の効果，立体感や遠近感，造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解する。

(2) 「思考力，判断力，表現力等」に関する題材の目標

・「B鑑賞」

ア 造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深める。

イ 造形的なよさや美しさの印象を他者との対話の中でより深め，様々な解釈をし，考察する。

(3) 「学びに向かう力，人間性等」に関する題材の目標

・積極的に話し合いに参加し，会話したり，細かく自分の考えを書きとめたりするなど，主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組む。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 余白や空間の効果，立体感や遠近感，造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。	鑑 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから，造形的なよさや美しさを感じ取り，諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き，表現の意図と創造的な工夫，美術文化について考えるなどして，他者との対話の中でより深め，様々な解釈をしながら考察している。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい，積極的に話し合いに参加し，会話したり，細かく自分の考えを書きとめたりするなど，主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（全8時間）

次	●学習のねらい ○学習活動	知技	思	態
1	1. 鑑賞（2時間） ● 対話による鑑賞に慣れ，西洋の美術作品を比較鑑賞し，造形的な視点に着目し，作品の見方や感じ方を深める。また積極的に鑑賞の創造活動に参加する。 ○ 5分間鑑賞活動 （ルノアール・マグリット等，計7回） ○ 対話による鑑賞（50分×2回） ①ピカソ・ゲルニカを観て ②高校生の作品を鑑賞しよう <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 知 余白や空間の効果，立体感や遠近感，造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解しているかを見取り，できていない生徒に対して奥行きや色使いなどの表現に着目させるなどの指導を行う。【発言の内容，ワークシート】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り，創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから，それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えさせる。【発言の内容，ワークシート】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して，それぞれの作品の特徴や色使い，構図などを考えさせる。【ワークシート，活動の様子】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 態鑑 主体的に作品を鑑賞し，余白や空間の効果や作風などで捉えることを理解しようとし，美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり，表現の意図と工夫や美術文化などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。【ワークシート，活動の様子】 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">知</div> ↓ ↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">鑑</div> ↓ ↓	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">態鑑</div> ↓ ↓

	<p>知 ワークシートの記述などから、余白や空間の効果、立体感や遠近感の理解や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】</p> <p>鑑 美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p>	<p>知</p>	<p>鑑</p>	<p>態鑑</p>
<p>2</p>	<p>2. 鑑賞（2時間）</p> <p>●対話による鑑賞から作品内面、作者の心情に迫る。</p> <p>○5分間鑑賞活動 （写楽、北斎、ゴッホ等、計7回）</p> <p>○対話による鑑賞（50分×2）</p> <p>①ベンシャーン、ラッキードラゴンを観て</p> <p>②高校生の先輩の作品を鑑賞しよう2</p> <p>知 余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解しているかを見取り、できていない生徒に対して奥行きや色使いなどの表現に着目させるなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから、それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えさせる。【発言の内容、ワークシート】</p> <p>態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して、それぞれの作品の特徴や色使い、構図などを考えさせる。【ワークシート、活動の様子】</p> <p>態鑑 主体的に作品を鑑賞し、余白や空間の効果や作風などで捉えることを理解しようとし、美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取</p>	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p>

	<p>ろうとしたり,表現の意図と工夫や美術文化などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。【ワークシート,活動の様子】</p> <p>知 ワークシートの記述などから,余白や空間の効果,立体感や遠近感の理解や,造形的な特徴などを基に,全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】</p> <p>鑑 美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り,相違点や共通点に気づき,表現の意図と創造的な工夫,美術文化などについて考えて,美意識を高め,見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p>	<p>知</p>	<p>鑑</p>	<p>態鑑</p>
<p>3</p>	<p>3. 鑑賞 (2時間)</p> <p>●対話による鑑賞から自分事として作品を捉える</p> <p>○5分間鑑賞活動 (宮城関連作家,アマチュア画家等計2回)</p> <p>○対話による鑑賞 (50分×2)</p> <p>①中学生たちの作品を観て</p> <p>②美大生の作品を鑑賞しよう3</p> <p>知 余白や空間の効果,立体感や遠近感,造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風,様式などで捉えることを理解しているかを見取り,できていない生徒に対して奥行きや色使いなどの表現に着目させるなどの指導を行う。【発言の内容,ワークシート】</p> <p>鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り,創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから,それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えさせる。【発言の内容,ワークシート】</p> <p>態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して,それぞれの作品の特徴や色使い,構図などを考えさせる。【ワークシート,活動の様子】</p> <p>態鑑 主体的に作品を鑑賞し,余白や空間の効果や作風などで捉えることを理解しようとし,美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり,表現の意図と工夫や美術文化などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。【ワークシート,活動の様子】</p> <p>知 ワークシートの記述などから,余白や空間の効果,立体感や遠近感の理解や,造形的な特徴などを基に,全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】</p> <p>鑑 美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り,相違点や共通点に気づき,表現の意図と創造的な工夫,美術文化などについて考えて,美意識を高め,見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p>	<p>知</p> <p>↓</p> <p>知</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p> <p>鑑</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p> <p>態鑑</p>

4	<p>4. 鑑賞（2時間）</p> <p>●対話による鑑賞で学んだことを制作に生かす。</p> <p>5分間鑑賞活動 （宮城関連作家，アマチュア画家等計2回）</p> <p>対話による鑑賞（50分×2）</p> <p>①幼児の作品を観て</p> <p>②宮城の身近な作家の作品を鑑賞 （県美術館等との連携）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>知 余白や空間の効果，立体感や遠近感，造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解しているかを見取り，できていない生徒に対して奥行きや色使いなどの表現に着目させるなどの指導を行う。【発言の内容，ワークシート】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り，創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから，それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えさせる。【発言の内容，ワークシート】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して，それぞれの作品の特徴や色使い，構図などを考えさせる。【ワークシート，活動の様子】</p> </div> <p>態鑑 主体的に作品を鑑賞し，余白や空間の効果や作風などで捉えることを理解しようとし，美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり，表現の意図と工夫や美術文化などについて考えようとしていたりしているかどうかを評価する。【ワークシート，活動の様子】</p> <p>知 ワークシートの記述などから，余白や空間の効果，立体感や遠近感の理解や，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】</p> <p>鑑 日本の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，相違点や共通点に気付き，表現の意図と創造的な工夫，美術文化などについて考えて，美意識を高め，見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">知</div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">知</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">鑑</div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">鑑</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">態鑑</div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">態鑑</div>
---	---	---	---	---

4 対話型鑑賞について

子供の思考能力、対話能力の向上を目的に実践される対話による美術作品の鑑賞法を指す。ニューヨーク近代美術館で1984年から96年までギャラリー・トークなどの教育プログラムを担当し、「視覚を用いて考えるためのカリキュラム (The Visual Thinking Curriculum)」制作に参加したアメリカ・アレナスが対話型鑑賞の第一人者とされる。日本では98年の著書『なぜ、これがアートなの?』(淡交社)の出版や、98年から99年にかけて豊田市美術館、川村記念美術館、水戸芸術館現代芸術センターとの共同企画により同名の展覧会が開催されたことで、国内でも対話型鑑賞が注目を浴びることとなった。対話型鑑賞では、美術作品を専門家による研究対象としてのみ捉えることを否定し、作品の解釈や知識を鑑賞者に一方的に提供するような解説を行なうことをしない。鑑賞者が作品を観た時の感想を重視し、想像力を喚起しながら他者とのコミュニケーションがなされることで、組織化された対話や交流が可能となる。そこには、作品を作者の経歴や美術史的考察によって価値づける既存の作品観や鑑賞法ではなく、作品と鑑賞者のコミュニケーションを通じた関係によって意味が付加されるという「開かれた作品」としてのアレナス独自の作品観がうかがえる。なお国内での対話型鑑賞への注目には、2002年4月に改訂された学習指導要領における美術・図画工作の授業内容に鑑賞の充実と、美術館・博物館等の積極的な活用が明示されたことや、「総合的な学習の時間」が授業として新設されたことが背景として挙げられる。

(現代美術用語辞典より抜粋)

〈芸術（美術）での ICT 機器の利活用について〉

- ・タブレット端末、コンピュータ等を用いて情報ネットワークを活用し、デザインの土台となる資料や情報収集を行うことができる。どのような情報収集を行なったのかについても、画面キャプチャ機能を用いて画像の保存をして提出させ、評価材料として活用することができる。ただし、ウェブページ上の内容への信憑性や画像の取り扱い、参考作品がアイデアのきっかけ等ではなく、模写に近いものになってしまう等、知的財産権等も含めて事前に十分な指導が行われるようにすることが必要である。また、情報収集の手段に関しては ICT 機器の活用のみならず、図書館等を利用するなどといった従来の方法も忘れてならない。
- ・タブレット端末の台数や生徒数等、各学校の実態によって異なるが、主題を生成してアイデアスケッチから下描きが完成した上で、タブレット端末のアプリケーションを用いて配色計画を立てる活用方法ができる。様々な配色のバリエーションが簡略的に試行錯誤をすることができ、配色による表現の多様性や可能性について体験することが可能である。
- ・技術指導を行う際、事前に教員の手元を撮影した映像やライブ映像をプロジェクターに投影することで、細やかな技術指導や説明を一斉に行うことができる。ただし、プロジェクターを通した技術指導も方法の一つではあるが、教員自らが絵の具のキャップを開け閉めすることや息を止めて絵筆を動かすような「緊張感」や「臨場感」は映像ではなく、実際の姿を生徒に見せることも効果的な技術指導の一つである。
- ・授業課題で完成した作品を外部のコンクール等に出品する場合、生徒作品を手元には残すことが難しい。その際、タブレット端末のカメラ機能を用いて作品の保存を行っておけば、出品後でも振り返りや評価の見取り、修正等にも活用ができる。
- ・完成した作品をタブレット端末のカメラ機能を用いて保存し、1年間取りまとめたものを生徒それぞれの作品集やポートフォリオ、年間を通した進歩の状況として活用することが可能である。
- ・「学びに向かう力、人間性等」の感性、思いやりなどについては観点別学習状況の評価や評定には示しきれないよい点や可能性、進歩の状況について評価するものである。この「進歩の状況」について、タブレット端末のカメラ機能等を用いて定期的に制作途中の生徒作品を記録することで、作品制作が完成に向けた進歩を把握し、評価に繋げることができる。
- ・感染症予防等による休校の場合等、タブレット端末のアプリケーション機能を用いて、アイデアスケッチやワークシートなど生徒が書き出したものを写真に撮り、教員へ投稿して提出物として活用することが可能である。
- ・学習の振り返りの際、Web アンケートを用いて行い、学習ログの蓄積と分析をすることができる。また、授業が始まる年度始めのオリエンテーションの場面でも、生徒それぞれの関心・意欲の実態把握が可能であり、年間授業計画や机間巡視における声掛け等への活用が期待できる。
- ・作品鑑賞において、タブレット端末、コンピュータ等を用いて作品を細部まで鑑賞することができる。この手法は近年、博物館や美術館でも行なっている事例である。タブレット端末の台数や生徒数等、各学校の実態によって異なるが、例えば鑑賞対象作品の画像を教員が用意して生徒のタブレット端末に配信して共有する。教員の指示で虫眼鏡ツールや画像の拡大機能を用いて部分的な鑑賞活動を行うことで、教科書や画集等では発見できなかった作者の筆使いなど細部の鑑賞することができ、「木を見る」と「森を見る」といった視点での造形要素の働きを理解する指導における活用が期待できる。

【芸術（美術）部会作成委員】

鎌田 幹子 宮城県教育庁高校教育課指導主事

丹羽 裕 宮城県宮城野高等学校主幹教諭

川名 和弘 宮城県富谷高等学校教諭

藤原 和矩 宮城県涌谷高等学校教諭